

CS通信

訓子府町 CS・学校運営協議会

地域みんなで学校応援団
 これまでのCS通信や学校運営協議会に
 関する情報はこちらへ 《訓子府町HP》⇒



◇CS(コミュニティ・スクール) 令和3年度第2回学校運営協議会を開催



令和3年10月14日(木)に、「第2回コミュニティ・スクール：学校運営協議会」を開催しました。

事務局から、コロナ禍の中の前期のこども園・小学校・中学校・高校の「くねっぶ学」への取組や各校が連携した取組について紹介しました。(裏面参照)

こども園・小中学校・訓子府高校から、前期の学校評価や取組についての報告がありました。

こども園…保護者アンケート・職員アンケートを今回からスマホを使っての回答とした。保護者からも好評であった。結果は、高い評価であったが、少数であるが「C」評価のあるものに注目して改善を図りたいと考えている。

訓子府小学校…前期学校評価(保護者・児童)は概ね高評価であったが、児童アンケートの「学校は楽しいですか。」の質問に20%近くの児童が、「あまり思わない・思わない」を選択している。「学習の楽しさ」に関する質問にも、「あまり思わない・思わない」に同じ割合で答えている。「学習が楽しくないと考える児童」と「学校が楽しくないと考えている児童」が重なっていると考え、全ての児童が分かる・できる授業を目指していく。

居武士小学校…前期学校評価結果では、児童は、「勉強は分かりやすい」「学校は楽しい」と答えている。取組の一定の成果と考えている。読書や体力づくりに力を入れてきた。後期に向けては、「地域でもあいさつができるようにすること」「学習が楽しいと思える授業スタイルをつくっていくこと」に取り組んでいく。また、コロナ対策も緩めることなく、続けていく。

訓子府中学校…前期学校評価を学校目標である「叡智」「友愛」「不撓」の3つで5項目ずつ、計15項目で行った。おおむね評価が高かった。改善が必要と思われる項目は、「計画的、継続した家庭学習」「読書への関心・意欲」の設問である。手立てが必要。また、「学校生活は楽しい」との問いに、10.5%の否定的な回答がある。コロナ禍の中で様々な制限があり、運動会を実施できなかったことなどが関わっていると考え。今後は、学校祭を工夫して行うなど、生徒の活動・学びを保障し、学校改善に努めていきたい。

訓子府高校…今年度前期の活動を4枚の写真で紹介。「訓中との合同農作業」「こども園との音楽交流」「歴史館見学」「菅野養蜂場での養蜂体験」どの活動も、有意義で、生徒たちも喜んで参加していた。さらに全ての学年・生徒が計画的に学ぶことができるよう取り組んでいきたい。今日の午後、町長による講演会も実施した。町をあげて訓高を盛り上げようとしてくださっているのが教職員にも生徒たちにも伝わっている。大変ありがたい。高校紹介のポスターは武蔵野美術大学に訓高美術部がzoomで指導を受けながら完成させた。次年度の生徒募集をアピールしていきたい。訓高で学ぶ3大効果やスクールミッションなどを前面に押し出し、訓高の更なる魅力化を図りたい。



◇ グループ協議 ◇ ①今年度のくねっぴ学への取組 ②児童生徒の生活実態調査結果

二つの柱について、3つのグループに分かれ、協議を行いました。
 ≪協議の柱1：ふるさと教育「くねっぴ学」の取組について≫

- ・様々な取組が進められ、素晴らしい。特に、今年度から始まった教職員対象の「くねっぴ学見学ツアー」は効果があった。
- ・訓子府の農業は、北海道の農業を凝縮した形。農業をきっかけにくねっぴを学んでいきたい。美瑛に負けない丘の風景など、身近で気づかない良さを探っていく「くねっぴ学」としたい。
- ・多様な地域の応援団企業による子どもたちへ学習機会を与えてくれる環境は素晴らしい。歴史館を小・中・高で見学することも、子どもたちの発達段階が違い、新しい学びがあるはず。
- ・くねっぴ学によって全体的にふるさとを学ぶ機会が与えられ、大変価値あるものになっている。今後、さらに発展的な取組を進め、地域資源・人材を生かし、協力を仰ぎながら進めていきたい。



≪協議の柱2：訓子府町児童生徒の生活実態調査結果…訓子府町の児童生徒は、全国と比較して1日の中でゲームなどを行っている時間が長く、家庭学習の時間が短い。≫

- ・コロナ禍のため、中学生も時間を持て余している。友だちとも会えない、そんなときSNSなどで繋がりをもちたいとなるのではないかな。自主的にコントロールできるようになってほしい。
- ・SNSのいじめ等がニュースになるが、リアルな人と人との接し方も同じ。一人一台が当たり前の時代。逆戻りはできないのだから、どうやって使いこなしていくかを教える必要がある。
- ・子どもたちにルールをつくってもなかなか守れない。まず、大人がどう接していくかを考える必要がある。一人一台の時代となり、子どもたちは使いこなしている。この良さや欠点を見極めていながら進めていきたい。
- ・家庭学習ができないのであれば、友だちが集まって学び合える環境を作ったら良いのではないかな。例えば、図書館や公民館。メディアに触れる時間を自己管理できるように育てる意識が必要。勉強するやる気スイッチを少しでも早く押すような、学びの楽しさ・喜びを味合わせる学校の授業を頑張ってもらいたい。大人が学びの環境を整えることが大切である。

◇ 令和3年度前期のこども園・各学校の活動 ◇ ～ご協力に感謝します～

【こども園・居小・訓高「養蜂学習」(菅野養蜂場)】



【訓中・訓高「協働農作業」】



【こども園「たなばた遠足」】



【訓小・居小「稲作学習」(米太郎倶楽部)】



【訓高美術部・こども会「バス停アート」】



【居小 會澤高圧コンクリート工場見学】

